

タウンミーティング記録 未来に向けて 今、ここから

日 時 令和6年10月6日(日) 午後2時～3時30分
場 所 中福岡集会所（中福岡自治会）
参加者 23人



主な意見等

参加者 今度の日曜に開催されるスポーツフェスティバルについて、今回と今後のことをお聞きしたいです。

市 長 スポーツフェスティバルについては、自治組織連合会を中心に進めてもらっているものです。東側の地域では、4年に1度全自治組織が参加する形で開催し、西側の地域では、以前は町民運動会を開催していましたが、最近では小学校区でいくつかの自治組織が参加するという形でしか行われなくなってきています。やはり参加団体が少ないと寂しいということで、4年に1度くらいは街全体でやってみてはどうだろうか自治組織連合会の皆様からご提言があり、始まりました。行政主体の事業ではありませんが、移動が難しく参加できないというところもありますし、開催場所も全体が参加するには十分な広さとは言えないので、今後は、もっと広い場所を検討して自治組織全体の交流が深まればいいのではないかと考えています。

参加者 夏場の猛暑対策について、行政側で既に対応されているもの、また今後、考えているものがあれば教えていただきたいです。

市 長 一例としては、公共施設を活用して涼んでいただくクールオアシスがあります。また、議会では、公園等に日差しを遮るものや木陰をつ

くっていくのはどうかという提言がありました。具体策というわけではありませんが、高齢者の方など、厳しい暑さの中で体力的にも自力での移動が難しい方のためには移動手段の確保が必要だと考えています。

参加者 毎月、市報を見ていて気になることが、世帯数は増えているのですが、人口は減ってきています。考えてみると、年々空き家が増えていると感じます。市として空き家対策はどう考えていますか。

市長 空き家は個人の財産ということもあり、行政が直接手を加えるのはなかなか難しい面もありますが、手を加えられていない物件については、管理をきちんとしていただくということが大事だと考えています。現在、市内にはおよそ900件の空き家があります。昭和30年代後半から40年代、人口が急増した時代にこの地域にお住まいだった方が80歳を超えていて、その方たちの孫の世代、30代くらいの子育て世帯の方たちが戻り入居しているような事例が出てきています。このことから東京から30キロ圏内という立地を活かして、子育て世代に戻ってきてもらえるような政策をどう展開していくかが重要だと考えています。空き家対策ですが、これまで空家特別措置法に定義されている特定空家に指定するのはハードルが高かったのですが、法律改正により、管理不全空家という定義ができました。これにより、行政としても命令や勧告がしやすくなったので、危ない所については手がつけやすくなりました。行政も消防本部も一緒になって第三者に危害が及ばないように取り組んでいきたいと思っています。

参加者 上福岡駅の開かずの踏切対策ですが、最近話を聞かなくなりました。時間帯によっては全く動かないこともあります。どうなっているのでしょうか。

市長 残念ながら対策の打ちようがなくなったというのが実態です。地下道建設のため、合併前に先行取得していた土地もあり、当時の費用で65億から70億かけることになっていましたが、合併後に費用対効果を検証した上で計画は中止になりました。歩行者や自転車については安全対策の面からも東西の連絡通路を検討するという方法は考えられるかもしれませんが、車については具体策がつかれないのが現状です。

参加者 広報板についてですが、掲示物をどこが管理しているのかということや日付についても期限が徹底されていません。管理を一元化した方

がいいと思います。

2点目ですが、防災訓練のとき、水とパンの缶詰をいただいているのですが、開けるとパンが缶にくっついてしまっていて、見た目の印象が良くないので、検討されてはいかがでしょう。

最後に福岡河岸記念館についてですが、自治会の行事でウォーキングを企画しているのですが、その時に利用したいと考えています。予算のこともあり、入館料を無料にしてもらえないでしょうか。

市長 広報板は、限られたスペースということもありますので、効果的に活用できるよう使い方を工夫していければと思います。

備蓄品は、賞味期限を迎える前に使って、また新しいものに変えていくというローリングストックという方法で運用しています。見た目の問題については少しフォローが必要かもしれません。

福岡河岸記念館の一带は、江戸屋の跡地も寄附を受けまして、これから整備をしていく予定です。入館料については、教育委員会管轄ということもありますので、安易に返事はできませんが、意見があったことを伝えます。

参加者 市報に掲載されていたシニア元気塾に申し込みをしました。10月に4回予定されていて、先日第1回に参加しました。運動だけでなく、脳トレ的な内容もあり、とても気に入りました。無料ですが、多少お金がかかってもいいのでもっと回数を増やしてほしいです。

市長 そのように言っていただけて嬉しいです。励みになると思いますので、担当職員にも伝えて、改めて事業の拡充を検討できたらと思います。

参加者 異常気象の大雨は、今後も増えていくと思うのですが、ハザードマップを見ると、非常にこわいことが書いてあります。新河岸川とか、荒川とか、国や県がどういう対策をしているか教えていただきたいです。もうひとつ、小学校低学年の孫からの意見なのですが、公園自体が少ないし、あっても木の根がでこぼこしていて走ることができない、高学年の子がたくさん遊んでいて、低学年の子は入る余地がないと言っていたので、公園を整備してほしいです。

市長 荒川はスーパー堤防化していて、上流のダムについても想定外に備え、緊急放流をしなくてすむように貯水量の管理をしているそうです。その他、河川敷の中に貯留するような対策も国土交通省で進めています。新河岸川については、荒川への放流を調整しています。自然

災害の中でも浸水被害の場合は予測がたつので、被害が発生する前に情報提供を行っています。

公園についてですが、数が少ないということだけでなく、ボール投げができる場所がないというご意見もよく聞かれます。やはり利用者層が多様化してきたこともあり、禁止事項が増えてしまったということがあるかもしれません。そんな中でボール遊びに限ったことではありますが、福岡中央公園で一部ボール遊びをできるエリアをつくりました。地域のローカルルールで放課後、あるいは土日の一定の時間帯は子ども優先にするとか、それぞれの地域で考えていけたらいいのではないかと思います。

参加者 ふるさと納税についてお考えをお聞きしたいです。他の地域に税収が流れてしまっているようなことはないのでしょうか。

市 長 残念ながら都市部の場合は、やはり地方に流れてしまうという傾向はあるかと思えます。ふじみ野市の場合は、有名な観光地ではなく、全国的に有名な特産品があるわけでもありません。税収についてですが、地方交付税と連動している部分もあり、ご心配いただいたような大きく減ってしまうという問題はありませんが、担当職員も工夫はしていて、例えば手作りのバイオリンのような返礼品など制度の中で税収確保のための努力はしています。